

F

月田秀子の昨日、今日、明日…

心休まるこの町を、去ることになりました。車の騒音からかけ離れ、小鳥の声で目を覚ます、昔から夢見ていた朝を400回近く迎えることもできました。

真夏のお盆の暑い盛りに自転車で宿探しをしました。最初は、住空間としてましなところが主眼だったのが、ファド倶楽部の事務局として集まりやすいところ、その上、家賃が安いという事で、天王寺区は鶴橋・真田山に居を定めることになりました。

今年になってから「ポルトガルへ行ってきました」という電話を10人程の人から受けた。羨ましい限りである。「今年、二度目のリスボンです」なんて絵葉書が来ると、「一体何して稼いでるのさ？」とつい突っ掛かりたくなるほど。中でも、新阪急ホテルの調理部長をされていた佐田氏なんかは、羽織り、袴でリスボンの5ツ星ホテル「Ritz」の総料理長を訪ね、ポルトガル料理をすっかり自分のものとされて、8月の大阪・日本ポルトガル協会の会合では5種類を超えるポルトガル料理を作ってしまうなど、彼の料理への心意気の熱さに、脱帽。

広島でのコンサートは、7月7日午後7時から、現地の在住ペルー人のひとり曰く「パチンコのフィーヴァーみたいだ」と笑われながら、カトリック教会の集会室で幕開け。主催してくれたのは、20年前の劇団「未知座小劇場」の仲間、菅野氏。原爆によって無念のうちに失われた人々の事を思い、打ち震える心のままに歌った。打ち上げの二次会は、菅野氏を始め、手伝ってくれた若者達の親分的な存在中山氏に連れられてバラックのようなたたずまいの店。丸椅子が散らばり、前の客の残飯を片付けているおばちゃんが「これまだ食べられるから」とあっけらかんと言いながら、彼等の残していった焼き肉を皿に盛ってくれた前菜から始まった。タクシーの運ちゃん、土方しながら自分の道を模索している若者、食えない芝居にかけている若者、皆、必死に自分の在り様を探している。そのうちに、飲むと放浪癖のある女の子が一人、行方不明になり、居合わせた全員が探しにでる。心身共に暑くて不思議な夜だった。

■住所変更のお知らせ

<新住所>

〒543 大阪市天王寺区味原2-10 エヌケイビル 502号

TEL/FAX 06-765-4808

月田秀子ファド倶楽部

7月後半は、ジャンジャンのCD発売記念コンサートツアーで、東京、長野の上田、金沢、新潟の上越と回る。上越の打ち上げでは、手伝ってくれた高校生の美和ちゃんの支援集会のような雰囲気になる。画一的な学校の教育体制に一人真っ向から対決している健気な少女の姿に、いつの間にか皆、自分を重ね、彼女を励ます積もりが、自分を叱咤していた。語る言葉がどんどん真実味を帯びてくる。「彼女の抱えている問題は彼女のものだけではないんだよな」。そういうジャンジャンの高嶋社長の目も熱く潤んでいるように見えた。最後に、ギタリスト達がギターを抱え、『難船』を歌った。私自信も涙が止まらなかった。数日後、彼女から、可愛い字で「貝殻セット」と書かれた小さな包みと一緒に、手紙が届いた。

「いとしのいとしの月田さん、初夏のパリッとした感じもなく、かといって秋でもない、ダラダラした今日このごろ、いかがおすごしでしょうか。…この時候のあいさつ、今考えたんだけど、なんかしつこいですね。

そのせつはファドを聴かせてくれてありがとう。それから名刺もありがとう。名刺は壁に飾ってあります。高嶋さんのと、一期さんのと、月田さんのを並べて。

今回おたよりしたのは、これといって用はないんだけどなにかしゃべりたい気持ちなのです。だから聞いていてください。何からいおうかなー。

えーと、じゃあ学校の話。わたし9月から学校に行くことにしたの。先日、担任からこのような手紙がきました。「美和さんが登校拒否なのは、家庭に問題があるからだ。(違うもん!)家庭の問題を今後の学校生活のために解決してほしい。学校は何も悪くないのだが、どうしてもというのなら、話だけは聞かから、紙に書いて送りなさい。事実確認をする。また、学級に慣れるためのトレーニングメニューを以下のように立てておいた。(犬みたいだなー)。

第一段階 すこしでも学校の雰囲気になれるよう、夏休み後期の補習のために登校を試みる。

ア) 実際に美和さんが授業を選択している科目は、現代文と日本史です。担当教員より、補習に対応した課題を出してもらい、学校において学習をする。

イ) 学習場所は、男子休養室。

ウ) 補習期間は、同封の別紙の通りです。

エ) 慣れることが目的なので、9:00~11:30 までの学習とする。

第二段階 9月からの学習

ア) 登校をし、図書館で学習する。9:00~3:30まで。昼休みの時間は、保健室で過ごす。

イ) クラスの授業と同じ内容の課題を同じ時間帯で学習する。

ウ) 学級に参加できるような状態に少しでもなったら、1時間でも2時間でも戻ってみる練習をする。(顔へ)

わたしはこの文章を読んであ然としました。「こんな風に気持ち悪い対処をされるくらいなら、教室に行った方がましだ。」と思いました。わたしは今まで一所懸命しゃべって話を通じさせようとしてきたのに、結局変態扱いされるだけなのです。教室に入れば変な目で見られるに決まってるしね。わたしのことを職員会議で話し合っ、「段階を踏んで、学級に参加させる」ことに決まったんだって。ひどいよねー。

ちゃんと家があって、奥さんと子どもがいて収入が安定していて、先生って悪い所がひとつもないのです。それでウチみたいな問題だらけの所に強くでて、何だっていうんでしょう。

わたしはぜったいに将来、みかえしてやるつもりです。

ところでサンチョさん（ポルトガルギターの池側さんのこと、ちなみに佐野さんは、パコさんです。）たちはお元気ですか。わたしがこれから教室のような冷たい最悪の場所に行こうという気になったのも、半分くらいみなさんのお陰です。

あ、それから思い出しました。あの後わたしたちは金沢に行ったんだけど、おみやげがあったのでした。金沢の海で「月田さん、ホテルのロビーで朝見たとききれいだったな。夜とま

たちがって光りに透けるみたいに。海の匂いがして…」とか思いながら貝殻を拾ったのです。心美しいサンチョさんの泣き顔も思い出しました。

それではさよなら。またねー。ホテルのロビーでした約束はホントなんだよ。わたしぜったいに将来、月田さんをこまらせるものをやっつけてあげるからね。だいたい月田さんみたいなすばらしい歌手をいじめる人は、死んだ方がましなのです。じゃあねー。
美和より」

引越し、総会、珍しく続いたライブスケジュール、夏の疲れ等が重なってか急性腸炎をおこし、即入院を宣告され、美和ちゃんにSOSを発したい思いで一杯の今日のわたしである。

<追記>

検査の結果、「腸ビブリオ菌」による食中毒と判明。一緒に寿司を食べに行った喜久ちゃんピンピンしているというのに。引越しはこわい。日本の夏はこわい。0-157はもっとこわい。

月田秀子

cartas

■拝啓 めずらしく梅雨も一休みです。お変わりございませんか。突然、お手紙する失礼をお許してください。

北野天神で初めてファドと出会い、夢中で写真を撮っているうち、貴女の唄声に心を打たれてしまいました。外国人の夏祭りでしたので、貴女が日本におられるとは、まして関西にいらっしやるとは思ひもありませんでした。

私、神戸の灘区に住んでいましたので、大震災で瞬時に、家屋全壊、そして一人息子（関大・電子工学2回生）まで奪われ、失意のどん底へ突き落とされました。この年になって、何故、私たちだけが、こんな目に会わねばならないのかと、悲しみと同時にひがみきつておりました。しかし、その間、先輩・友人達が沢山かけつけ、慰めてくれました。こんな話が出来るまで立ち直らせてもらいました。皆様のお力添えに、深く感謝致しております。

その当時は、音楽なんてと思っておりましたが、音楽仲間は無理やり誘われて好きなJAZZ（デクシー・スィング）、シャンソンを聞いているうち、フーッと悲しさを忘れ、体がゆれている自分に気がきました。音楽に随分助けられました。

そんな時、ファドのライブがあると誘われ、アートクラブへ参りました。北野のあの時の貴女に会えたのです。長い時間お話ができ、ますますファンになりました。

早速「バナナホール」へカメラをひっさげ駆けつけました。「きまぐれライブ」は素晴らしかったです。〈第一部〉のシャンソンは日本語の歌詞で意味が分かり説得力がありました。

写真は、フラッシュがたけず、1/15秒でかつ、三脚なしでしたので、“手ブレ”が出て、これが限度でした。しかし歌の中に入り、貴女の表情を懸命に追っかけました。雰囲気のあるいいショットが3~4枚あります。ネガも差し上げますので、ご利用くだされば幸いです。

アートクラブでCDを貰いましたが、家に帰って、歌詞をたどりながらファドを聞くと、内容と共にせまり、その迫力がぜんぜん違います。ポルトガル語の心地好い響きだけでなく、意味が分かって聞くファドの素晴らしさは格別です。ファドファンの皆様にもこのことをお勧め下さい。出来るだけファドも日

本語で唄ってください。先日のように歌の内容を語ってから聞かせてください。勝手なお願ひ申し訳ございません。貴女との再会で、ファドを身近に感じる事が出来ました。ファンになりました。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。 敬具

（豊中・馬場芳朗）

■「きまぐれライブ」の疲れは取れましたか？あの後すぐに“感動”を手紙に書いたのですが、出しそびれてしまいました。しかしやはり書いて送らなければと、書いています。

あのコンサート、特に第一日目は今まで聞かせてもらった中でも最も感動しました。大ホールのコンサートとは違い、あの薄汚れたフロアにぎっしり満員の観客、月田さんの歌う声は一滴として消え去ることなく人々の胸へと染みていきました。

僕も友人夫婦と聞いていたのですが、一曲一曲を大切に歌う月田さんの姿が美しく、目頭が熱くなりっぱなしで、テレビやレコードで聞く音楽とは別の世界でした。

月田さんの歌を聞く勇氣が出てきます。何物をも乗り越えていく芸術家の気魄に僕の心は緊張します。

聞いているときは曲の一つ一つの感想もあるのですが、すべてが終わった時は、もう一つ一つの感想など忘れて、高い所へ放り上げられた自分を感じるだけです。

月田さんは歌手であるのでしょうか、詩人でもあると思います。訳詞の上手さはもとより、人生や世界を考える視点は素晴らしい詩人であり、月田さんの生き方が詩人の生き方なのだろうと思います。

社会の常識の衣を着た詩人など詩人ではないと僕は頭でいつも思っているのですが、やはり身の安全に流されてしまいます。月田さんは偉いと思いますし、絶対に世に認められる人でなければと思います。

月田さんの真似はできないけれど、背伸びをせずに、自分をさらけ出して僕は僕なりの成果を作って行こうと思っています。

今、年一回行っている中国旅行の詩をまとめて、来年にでも本にしたいと計画しています。出来たら読んで下さい。

今度のコンサートも楽しみにしています。

（奈良・井関淳治）

読切連載
秀子のエピソード帖 [その.8]

内間 天馬

『ブタ』を夢見る秀子の楽しみ

以前、何かの打ち合わせの時、秀子さん好物のトンカツを食べながら、ということになり、東住吉森本病院近くの名店『開化亭』へ、夕飯がてら彼女をお連れした。大好きなトンカツとあって、彼女やや興奮気味。だけど、開口一番、「今日のお昼、トンカツ食べたの、昨日の夜はカツ丼だったわ」。ぶったまげる筆者。今夜トンカツを食べる予定だと知ってて昼もトンカツを食べたんでっか? 「ウン、私の大好きな細工谷の『たわら』と、この『開化亭』の味を比べたかったの」と、すましてのたまう彼女に、しばし呆然。

食い道楽の大阪。が、蕎麦とトンカツは東京のほうが上との説。これは、東京育ちの秀子さん同様、長年東京に住んだ筆者も反対はしません。以前このコラムで、彼女は焼肉ずきだと書きましたが、実は、大阪に良いトンカツ店が少ないから、焼肉派になったそう。筆者は牛も食べますが、豚はもっと好きだなあ。値段が高いものが高級でご馳走だという通念がありますが、これは、有名な音楽家・画家の作品が良いのだ、という考えに通じないでしょうか?—この画家は一号ナンボ……と記述

のある美術家年鑑など、一体、何のために存在するのでしょうか。値段の高いビーフステーキがトンカツより高級だとする風潮はちょっとね…。日本の牛肉が馬鹿みたいに高いのは、犯人がいるのですよ。ここに書くスペースはないけど。事実、牛より豚や鶏の値が高い国などいくらでもあります。ま、好きずきですけど…。

ところで、豚肉をよく食べる沖縄。事実上世界一と言われるその長寿の秘密は、豚肉の表皮近辺にあるコラーゲン。従って、秀子さんが実際のお歳より若く見えるのは間違いなく豚肉の影響でしょう(と、言っちゃえ、この際)。「たわら」は、秀子さんお勤めのおろしトンカツなど、いろいろな変わりトンカツが楽しみ、『開化亭』は、豚肉料理を標榜するヒレ・ロース主体の正統派、と、それぞれ違いがありますが、共通点は、ご家族でこじんまりとやっておられる、いわゆる街のトンカツ屋さん。「たわら」は午後三時以降はテイクアウトのみ。「開化亭」のご主人は元ロカビリー歌手、奥さん美人(関係ないか)。何だか今回はグルメ情報みたいになっちゃいましたね。トンカツ好きの方は、電話帖で調べて訪ねて見て下さい。両店とも味は保証します。

秀子さんはポルトガルで新聞の表紙に出ましたが、最近日本でも某雑誌の表紙を飾りましたね。トンカツ食べて表紙に載る。これがほんまの「トントンビョーシ」。さらに彼女は叫ぶ「わたし、ブタの味方!」

ensaio

私のルーツ-聞き慣れぬ曲に血騒ぐ

私は実はポルトガル人だった」。この頃、会う人ごとにそう思う訳を打ち明けている。「突然何を言い出すのか」と驚く相手の顔を想像しているのだが、その反応はこちらの期待を大きく下回る。当たってなくもないだろう。それとも日頃の言動のせいだろうか。

話は六年ほど前に遡る。今はもうないが、東京は銀座にあった「銀巴里」。かつてシャンソン歌手の登竜門と言われた所だ私が好きなタイプの地下にある店で、ホールというより「小屋」のようなスペース。しかし、漂う空気は歴史と実績に裏付けされた本物。座っているだけで音楽通になった気がした。

そこで流れる音楽はほとんどがシャンソンだったが、その中に全く異なる音色があり、何かに巡り合えたような胸騒ぎを感じた。それがポルトガルの生活者の歌、ファドだった。

ベテランであろう女性歌手が黒い布をぐるりと身にまとい、ギターだけの伴奏に合わせ、太くかすれ声で何曲か歌った。歌の意味は分からなかったが、そのリズムと私の体中の血液の流れが一致していると感じ、これは私と何か関係があるのかなという気がして仕方がなかった。その後、積極的に聴くことはなかったが、ずっと気になる音楽になった。

ところが今月七日午後七時、広島市内で初めてファドのコンサートが開かれた。ものすごい力に引っ張られるようにして会場へ向かった。いかにも急ごしらえの教会の会場がこの歌にぴったりで、私も不思議となじむ。

想像以上に多い観客はみんなそれぞれに人生が語れそうな人たち。存在感あふれる歌手が歌う六年ぶりのファド。曲が終わるごとに私にとってこの感触は自分の民族の音ではないかと思え出した。

行ったことも見たこともない港町リスボンの石畳を歩く自分を見る事ができ、潮風やしぶきまでもが体感できてしまった。こうなると結論を出すのが早い。ポルトガルは決して見知らぬ土地ではない。

とっぴなことをと思われるだろうか。だが人は生きている間自分を探る旅をしている。自分の中の別の民族性を感じることも、その手掛りになるのではないか。

人の悲しみやあきらめ、嘆きを歌う歌だが、泣き節でも恨み節でもない。決して人のせいにはしないファドは、自分への応援歌かもしれないと思っている。

informação

〈月田秀子のスケジュール〉

- 10月 1日(火) 山梨/甲府『レストラン・ボルドー』 ☎0552-32-6523 (設和)
 2日(水) 長野/松本『四柱神社』 ☎0263-32-1936 (宮阪)
 5日(土) 大阪/淀屋橋『カディス』 ☎06-201-0525 (星野)
 17日(木) 長崎/出島『NIB出島ホール』 ☎0958-25-7992
(長崎でファンファンを聴く会)
 18日(金) 北九州/小倉『ラフォーレミュージアム小倉』 ☎093-531-0310 (昼)
 ☎093-522-0597 (夜)
 ☎0276-45-8291
 22日(火) 群馬『太田市市民会館』
 24日(木) 京都/四条河原町『巴里野郎』 ☎075-361-3535
 ①8:00 ②9:00 ③10:00 袴・オカリナ / 野上圭三 PG/池側 忠
 25日(金) 京都/四条河原町『巴里野郎』 ☎075-361-3535
 ①8:00 ②9:00 ③10:00 P/河村真千子 PG/池側 忠
 26日(土) 神戸/御影『マリールース』 ☎078-842-5522
 28日(月) 大阪/心斎橋『アートクラブ』 ☎06-253-0827
 8:00~3回ステージ
- 11月 8日(金) 大阪/松原市『部落解放センター』 ☎0723-32-5705
 9日(土) 大阪/老松町『プリコラージュ』 ☎06-314-5333
 16日(土) 長野『小諸ユースホステル』 ☎0267-23-5732
 25日(月) 大阪/心斎橋『アートクラブ』 ☎06-253-0827
 8:00~3回ステージ
 28日(木) 京都/四条河原町『巴里野郎』 ☎075-361-3535
 ①8:00 ②9:00 ③10:00 袴・オカリナ / 野上圭三 PG/池側 忠
 29日(金) 京都/四条河原町『巴里野郎』 ☎075-361-3535
 ①8:00 ②9:00 ③10:00 P/河村真千子 PG/池側 忠
- 12月 1日(日) 島根/浜田『ワシントンホテル』
 6日(金) 大阪/桜橋『サンケイホール』別紙チラシ参照
 13日(金) 愛知/名古屋『愛知県芸術文化センター』 ☎052-833-4330 (水谷)
 26日(木) 京都/四条河原町『巴里野郎』 ☎075-361-3535
 ①8:00 ②9:00 ③10:00 袴・オカリナ / 野上圭三 PG/池側 忠
 27日(金) 京都/四条河原町『巴里野郎』 ☎075-361-3535
 ①8:00 ②9:00 ③10:00 P/河村真千子 PG/池側 忠

- 11月2日(土) 午前4時からのNHKラジオ第一放送「心の時代」で、40分程おしゃべりします。早起きして聞いてみて下さい。ただし「早起きは三文の得」になるか否かは保証の限りにあらず。
- 総会に出席された方々に、プレゼントさせていただいたカセットテープ「月田秀子スペシャル'96」聞いていただけでしょうか。
ご希望の方は、96年度会費と共に、同封の郵便振替用紙の通信欄に「月田秀子スペシャル'96」希望とご記入の上、500円を添えお申し込みください。
- 5月、二日間にわたって開催された、大阪・バナナホールでの『きまぐれライブ』のカセットテープできました。2本組で2000円です。同封の郵便振替用紙の通信欄に『きまぐれライブ希望』とご記入の上、代金を添えてお申し込みください。自家製・純手作り故、音声等お聞き苦しい点は、ご容赦ください。なお、お気付きの点、ご感想等お聞かせ願えたら嬉しく思います。

収録曲 <PART I> アンデスの風になりたい・ツクマンの月・花祭り・わが影のビダーラ・人生よありがとう・灰色の瞳・時計・イマジネーション・黒いオルフェ・自由の歌・平和のシンボル・丘の上のあばらや・悲しいポルトガル・黒の母・孤独・難船 <PART II> ジャニーギター・失われた恋・スカーフ・かもめ・さくらんぼの実る頃・水に流して・愛しえない時・消え去りし友・私の孤独・掃り来ぬ青春・時は過ぎて行く・AS TIME GOES BY・SUMMER TIME・二つの栄光・私の中のファド・夕べの折り・歌に憑かれて

■編集後記

9月29日のファド倶楽部総会は、下関から不眠不休で車を走らせ、駆け付けてくれた内間天馬氏のユニークで暖かみのある司会に導かれ、和やかな雰囲気の中に幕を下ろしました。ショータイムの、ポルトガルギター2本、ギター1本、ベース1本、総勢4名によるファド演奏は圧巻でした。ミュージシャンの隠し芸大会では、隠し芸やら、本業やら皆、大奮闘。次の総会では、みんなが参加できるゲームなどあったらいいなと思っています。

- 月田秀子ファド倶楽部ジャーナル第12号
- 1996年10月1日発行(季刊:年4回発行)
- 編集・発行「月田秀子ファド倶楽部」事務局
- 〒543 大阪市天王寺区味原2-10 エヌケイビル 502号
- TEL&FAX 06-765-4808